

# 「表現力を磨く」

校長 石田 雄介

朝夕の寒暖差が大きくなり、秋が深まってきたことを肌で感じる今日この頃です。

学習発表会では皆様からご来校いただき、誠にありがとうございました。“心にひびく南小魂”を合言葉に取り組んできた成果で、子どもたちの発表にも気持ちがぐっと入っていたように感じました。皆様の心にも思いが伝わりましたでしょうか。

「**考え表現する力**」を高めるための発表会でしたが、**学習の秋**はこれからが本番です。子どもたちの「表現力」を一層高めたいものです。**表現力**とは、「自分の考えや思いを、他者に分かりやすく伝える力」のことです。表現方法もいろいろで、文章や絵、スピーチ、表情、動作などによって伝えることができます。また、音楽やダンス、絵画、演劇などの芸術と呼ばれる分野も表現方法のひとつと言えます。

では、「話す・書く表現力」の向上には、どのような方法が効果的なのでしょう？グロービス経営大学院の村尾佳子氏は、トレーニング方法を3つ紹介しています。

## 方法①：振り返る習慣をつける

表現力を磨く上で重要なのは、「自分自身を客観視し、振り返る」ということです。自分の文章や話し方などを、一步引いた目で見てみる。そして、「他人から見て自分はどのように映っているか」をチェックしてみると、自分の癖や課題を発見できます。

## 方法②：様々なジャンルの本を読む

「多様な読書」が、語彙力や表現力の向上につながります。本には様々な言葉が使われているため、これまで知らなかった語彙や言い回しに出会う機会も多いでしょう。重要なのは、「いい表現だ」と感じるものがあったら、「なぜそう思ったのか？」を言葉にして探ったり、「自分も何かの場面で使えないか」と考えたりすることです。

## 方法③：思ったことを発信する

「発信」を繰り返し行うということ。例えば、文章表現力を向上させたい場合は、日記や短文作りなどを行い、自分の考えをまとめる習慣を作りましょう。大切なのは、伝えたいことをどれだけ表現できているか、自分でチェックすることです。

…上記のことは、学校でも日々取り組んでいることです。〔学習の最後に**振り返り**をして自分の学び方について考える〕、〔図書室の本を定期的に借りて**読書**に浸る〕、〔絵や日記、作文、新聞、ロイロノート等で考えや学びを**発信**する〕などです。

誰でも簡単に情報を発信できるようになり、個人の発信力が問われる時代が訪れています。相手に分かりやすく伝える表現力は、ますます重要性が高まるものと思われます。自分の日常の行動や話し方、文章などから、「どう伝えたら分かりやすいか」という意識をもち、表現方法を子どもたちと一緒に考え合う秋にして参ります。